

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	墨田区亀沢保育園
施設所在地	墨田区亀沢1-27-5
法人名	社会福祉法人清心福祉会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

地域の資源を活かそう  
(端材)

<テーマの設定理由>

通常、家庭からの廃材を回収し、自由な工作を保育園では行っている。今回千葉大学のあそび大学の方と連携し、墨田の町工場から出る端材を利用できることとなった。墨田区の歴史と共になぜ沢山の種類の端材が墨田区にあるのかを職員も勉強し、9月には、幼児向けの廃材ワークショップを行うことで素材を知り自由な表現で探究活動を楽しむ。また、素材によってどのようにしたら接着できるのか？思いの形に作るにはどうしたらいいのかなど、子ども同士で伝え合い学び合うようになる。

## 2. 活動スケジュール

令和7年4月～令和8年3月

令和7年9月3日 端材のワークショップを行う

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

講師の派遣。

【準備物】 様々な種類の端材、端材を入れて持ち運ぶ道具箱、ハサミ、ボンド、セロテープ、両面テープ、養生テープ、テーブル、イス。

【環境】 ホールの真ん中にテーブルを並べ端材置きにする。

児たちが作業するテーブルとイスは部屋の両端に並べる。児たちが自由に端材を取って遊べるように設定した。また、大きなウレタンブロックも部屋の片隅に用意をし飽きた児が遊べるスペー

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

3～5歳児をメインとして乳児は自由参加。時間をずらしながらホールに集まり、各クラス遊び始める前にあそび大学の講師よりワークショップで使う端材はどのような過程で生まれたものか写真を使い児たちに説明。その後、児たちは自分が使いたい端材を集めて自由に制作を楽しんだ。乳児クラスの児たちも端材に触れたり、積んで崩したりして活動に参加できた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

制作は1人で集中する児もいれば2～3人で共同で作る児等様々な姿が見られた。子どもたちが主体的に活動を楽しめるよう保育士は見守り、保育士自身も制作を行い楽しむ姿を見せた。1人は端材を持ち、1人はボンドを塗り、と作業を分担し協力したり、アイデアを出し合い複数人で1つのものを作っていく姿など見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

今回は、あそび大学の協力を得たことで種類も量もたくさんの端材があった。職員の予想では「集める」ことに注力する児が出るのではないかと考えていたが、そのような姿よりも「〇〇を作ろう」「これをくっつけてみた」という気持ちが大きかったようで作ることを楽しめていた。何を作っているのか聞いてみると「まだ決めてない」という児もおり、「これを作る」と決めて始める大人とは違い、作りながらイメージを膨らませていく子ども達が多いことを知ることが出来た。安易に「何を作るの?」「何を作ったの?」と成果を聞くような言葉がけはしないほうが良い事。今ある事実だけを褒めていくようにしていこうと思う。また、子ども達がイメージ力を持っている事、端材を集めるだけの行為に子ども達がならなかったのも、年間を通して廃材の製作をしていることも関係しているのだと思った。